

福島区歴史研究会 会報

第十四号

2021. 3

目次

「追悼」林一良さんを偲んで・・・・・・・・・・・・・・・・末廣 訂	1
「新型コロナ禍の二〇二〇年」	
感染症の歴史抄と私の体験・随感・・・・・・・・岡倉光男	2
新型コロナウィルスで経験したこと・・・・・・・・末廣 訂	6
コロナ下の福島区の花・ノダフジ・・・・・・・・藤 三郎	9
コロナ禍での自粛生活・・・・・・・・宮本隆正	10
鷺洲にかかっていた橋の親柱石碑 2・・・・・・・・水谷浩一	11
浪花ふくしま「男塾」まち歩き	
「海老江・鷺洲コース」案内・・・・・・・・大垣禎秀	12
歌舞伎入門講座 世界に誇る歌舞伎の素晴らしさ	
―二〇一九年第二回セミナー報告―・・・・・・・・大垣禎秀	13
大阪を襲う南海地震と津波	
―二〇一九年第三回セミナー報告―・・・・・・・・森本棟夫	16
2020年の事業・活動記録	15



〔追悼〕

林一良さんを偲んで

末廣 訂

少し遅くなりましたが、会員・林一良会員のご逝去を偲んでお悔やみ申し上げます。

といっても、林さんを知っている会員の方はほとんどいないと思います。平成二三年、二四年の総会に出席されたぐらいで、日常の行事にはほとんど顔を出しておられませんでした。

私と林さんとの出会いは、平成二〇年の春ごろ、林さんが当時活躍されていたNPO法人「いちようコンソーシアム」で大阪市内歴史探訪として各区のまち案内を精力的にされていた頃に参加して、数区のまち案内をうけました。

お聞きすると林さんは福島区在中の方と知り、当時、福島区歴史研究会が三十周年を迎える準備に入っていました。といいますのは、三十周年に記念誌を会で発行する話がでており、何らかの手掛かりを探していたところ、林さんらが企画された「福島区の史跡と伝承を訪ねる」というガイド案内が大変良く編集されており、林さんにお知恵を拝借したわけです。

林さんははじめで誠実で何事にも控えめな方でしたが、大変信頼されていました。

平成二三年の総会で、「三十周年記念冊子」の文案として紹介した
ことがありました。

その後体調をくずされ、大変残念ですが、二〇一九年に逝去されま
した。当会例会に出席される機会がありませんでしたが、林さんが主
筆された「福島区の史跡と伝統を訪ねる」は、一つ一つの説明文にス
トーリーがあり、私はいつも参考にさせていただいている福島区のガ
イドブックです。

お元気な時に、どちらかというところ「しわがれ声」でまち案内をされ
ていた姿を思い浮かびます。

ご冥福をお祈りいたします。



会員の原稿を

募集します！

福島区の記録を

残しましょう

古い写真を探しています

お手元のアルバムに

災害や今はない建物などが

写っているものがあればご提供ください

展示などに活用させていただきます。

「新型コロナ禍の二〇二〇年」

感染症の歴史抄と私の体験・随感

岡倉光男

二〇一九年十二月八日（異説あり）、新型コロナウイルスの罹患者
が、中国武漢市で発生・判明して、丸一年が過ぎた。この間、最初の
一・二ヶ月間に世界中に蔓延し、三月一日、WHO（世界保健機関）
はパンデミック（世界的大流行）を発表（COVID-19と命名）。
日本では二〇二〇年一月一四日、武漢滞在歴がある肺炎患者が報告さ
れ、翌一五日コロナ陽性と判明、その後、旬間を経てマスコミ各社が、
コロナ感染者数と死者数を、世界・国別リスト一五位まで・国内では
都道府県別に、連日発表告示している。

私（岡倉）が、健康維持・増進のため利用している市営の下福島公
園内下福島プール（運営はコナミ）も、コロナ禍のため、当初、同二
年二月二九日より三月一五日までの休館が、途中から急遽二四日まで
に延び、その後「当分の間」に再延長、結局六月一日まで、三ヶ月間
休場した。

現在（二〇二一年一月一〇日）、昨年一月中旬以降に急増した、
第三波の蔓延が正月明けから急増一途で、政府は首都圏対象で「緊急
事態宣言」を一昨日八日から一ヶ月間、発令した（その後関西圏など
も追加）。イギリス・南アフリカで異変種の発生、世界中に拡散しつ
つあり、効果的なワクチンが待たれ、全国民の不要不急の外出・会合
自粛要請の日々が続いている。

思い返せば、今回の感染症騒動になるまでは、時に風邪を引いても殆ど無頓着で、たまにインフルエンザの予防注射を打って貰っても、多分身近に患者も出ず、命に別段の恐れは無いと思っていた為でしょう、どこか他人事之感で過ごしていたようです。

実の処、私は満三歳の初夏、大阪市立桃山病院（注1）に疫痢で約一ヶ月入院の経歴があります。

桃山病院は、明治二〇年（一八八七）に設立の、日本で最初に出来た法定伝染病隔離病院で、疫痢とは、三才から六才の幼児が赤痢菌に掛かると特異な重篤症状が出て、最初の一・二日で一割が死亡、当時昭和一二年（一九三七）度の大阪市内疫痢患者二六七五人中死亡一〇二七人で、一〇人中四人弱が亡くなりました。大阪民俗学研究会代表で本会々員の田野登さんのお父上も、腸チフスの疑いで入院され、結果は陰性であったそうです。

私の生涯最初の記憶は、昭和一二年に新しく完成したばかりの、規模は、昭和一四年、一日在院患者数最高一八九七人を記録）五階建て建物の、何階だったか、窓の無いコンクリートの壁に囲まれた、小さな病室です。入り口の方に足を向け、ベッドに寝かされ治療を受けていました。後で母親から聞いた話では、入院何日目かで手足の先から段々冷たくなり、医師が最後の治療だと、唐辛子による温湿布を施したところ、徐々に身体に温かみを取り戻し生還した、とのことでした。退院日にエレベーターに乗り、当時円タクと言われた、タクシーからの過ぎゆく町並みの景色が思い出されます。

桃山病院は、平成五年（一九九三）一月に閉鎖され、都島区の大

阪市立総合医療センターに吸収・合併、跡地（天王寺区筆ヶ崎町）はマンション群が建ち、一角に昭和一二年に建立された、縦七八センチ、横一二〇センチ、厚さ三二センチの殉職者慰霊碑（土が）丈が、往事を忍ぶ縁として、今日の新型コロナ騒ぎをよそに、ポツンと建っています。表面に事故一名、感染病死、市川院長を含む三三名（腸チフス二五・コレラ四・赤痢二・ペスト一）の氏名と共に、裏面の碑文には、五〇〇字に及ぶ弔文墓誌が刻まれています。思うに付け、現在進行中の最前線で、献身的に頑張っておられる、医療関係従事者の、ご苦労に敬服、頭が下がります。

大阪市は伝染病・疫病・流行病など、今日では感染症の言葉に統一されたが、日本では先見の取り組みをしていた。市内数力所に避退所を設け、府下西成郡野田村に明治一〇年（一八七七）、早くも避病院、同三三年（一九〇〇）三月に工費三万七千円をもって、六鈔弱の鼠島に新たに消毒所を設けた。鼠島については、元会員の中島陽二さんの「ある小さな島（鼠島）の生涯」（注2）に詳しく調べられた記事がある。隔離所は戦中、空襲による被災で消滅したが、戦後、同地は（現在の大開四丁目一）一時撤去自転車の置き場として利用され、現在は、福山通運大阪支店流通センター他の敷地となっている。

この度の新型コロナ禍で、感染症の歴史



「最新大阪市内街全図」
和楽路屋 一九三二より

を大まかではあるが尋ねてみた。(注3)

今まで知らなかったが、聖武天皇(在位七二四〜七四九)が奈良東大寺と大仏を造立した動機が、天然痘からの鎮静平癒を祈願しての鎮護国家思想の体现であり。数次にわたる遷都・行幸の繰り返しも関係している節がある。

人類の疫病史で、結核を初めとする感染症流行は、約一万年前まで遡ることが出来る。人が農業のために森林を切り開き、野生動物を家畜化するといった生態系をくずし、都市化で人口が集中したことが、それを増長した。

「コロンブスの交換」で大陸間に病原体が互いに持ち込まれ、天然痘などで免疫の無かったインカやアステカ帝国が弱体化。アメリカ大陸からユーラシア大陸を経て遠く日本まで、僅か二〇年程で梅毒が伝染し、インドの地方病だったコレラは一八一七年に感染爆発を起こし、世界中に広がった。

二〇世紀初頭にアメリカから流行したインフルエンザ(スペイン風邪)は、第一次世界大戦へのアメリカ参戦で欧州に拡大、世界中で数千万人の命を奪った。その数は、戦乱で亡くなった人よりも多かった。日本では皇族の死亡もあった。

二〇一三年の「エボラ出血熱」の死亡率は約四割で、感染源はコウモリ、今回の新型コロナウイルスもコウモリかブタ経由ではないかと言われている。

一七九六年五月一四日、イギリスのエドワード・ジェンナーは、牛痘人体実験に成功、以後、天然痘を撃滅させ、人類が翻弄され続けた、感染症に免疫の考えと予防医学の扉を開いた。病原体を培養、弱毒化してワクチンを製造する方法は、フランスのパストール(一八二二〜九五)の功績が寄与した。

一九四〇年、抗生物質の動物実験成功、細菌性疾患に著しく効く、ペニシリンとストレプトマイシン他により、結核他感染症治療が劇的に前進した。

先に記したように、幼児期感染症の経験者でありながら、それらに注意や想像力が欠けていたのを認め、先人の記録を再度、追跡・追慕した。

例えば、イギリス人のリビングストン(一八一三〜七三 スコットランド生まれ)やスタンレー(一八四一〜一九〇四 イギリス生まれ)のアフリカ奥地探検の人間ドラマに、若き日に胸沸かしたが、成功にたどり着く前に、幾多の探検家が行方不明になり、別の探検隊一行が次々とチフスやマラリアなど、現地の熱病に倒れるケースが続いた。人食い人種も残っている現地人の攻撃にもあって、四〇人が全滅した一行もあった。

細菌学者の野口英世(一八七六〜一九二八)は黄熱病研究中、西アフリカのアクラで、蚊の媒体で殉職。当時の光学顕微鏡では、ウイルスは微小すぎて、発見不可能であった。

ウイルスの大きさは、直径八〇〜二二〇ナノメートル（二ナノは一〇億分の一メートル）細菌は一〇〇万分の一ナノ。

致死率の高い麻疹^{はしか}をはじめ、感染症に罹^{かか}って死亡した著名人を列挙すると、際限ない。ウイルスはこの世に満ちていて、その内人に害を成すウイルスは、ワシントン大学の報告書では二一七種、プラス今回のコロナ種となる。

白血病の中の「成人T細胞白血病」も、ウイルスによる感染症で、1型から4型まであることを、この度知った。この病で女優の夏目雅子さんが二七才の若さで亡くなっている。

見えない敵に罹らない為には、運もあるかも知れない。新型コロナウイルスのクラスターと聞いたときには、空襲時の焼夷爆弾を連想した。爆撃機から落とされた一個の物体が、空中で弾けて、最初の頃は三〇個程の、焼夷弾が纏まって、雨のように振り注いで落下してきた。

今から振り返れば、二〇二〇年夏に、ロックダウン（都市封鎖）をしていけば、罹患者は今ほど増えなかっただろうが、この間、一世帯二枚の布マスク（アベノマスク）配布と、一人一〇万円の特別定額給付金があり、和と秩序を尊ぶ国民性に期待して、集合施設の閉鎖休場・休校以外は、営業時間短縮の要請等、各人の自粛に期待しての指示で、為政者は過^あぎしている。

消毒、三密（密閉・密集・密接）を避けてソーシャルディスタンスを守る、こまめな手洗い・うがい・マスク着用等、一年前には無かつ

た習慣が常態化され、日常の生活行動様式となっている。一方で忠実に守らない人達も、多くいるのも現実で、コロナ収束への目処は見えてこない。

本日（二〇二二年一月一日）は、恵美須神社の宝之市大祭（通称・十日戎）当日で、野田戎では、境内の屋台出店は止めたものの、参道は、例年の八割程の屋台・露天が出ていて、お参りの善男善女で賑わい、密集・密接になっている。クラスターが無ければよいが、不安な世の中、信仰心は押さえられず、福だけ持って帰れるか、持つ吉兆笹の揺れるところである。

最後に、過去には約二〇年毎に、感染症の流行があつて、その都度、押さえ込んできた。それら経緯の感染史に学ぶとともに、移さない、移されない注意、移動・行動の自由をこの際、暫く我慢・辛抱する。江戸時代後期、疫病の流行を防ぐ瓦版の再来、毛の長い顔の半人半漁「妖怪あまびえ」（ごく最近、絵入りキーホルダーを知人から貰って入手）等において、気分の癒しと、自覚の涵養に利用するのも、方法では無いかと思考する次第。

「朝^{あした}の来ない夜は無い」、皆様と、ご一緒に新型コロナウイルスの、一日も早い収束を願うばかりです。

注1 『大阪市立桃山病院一〇〇年史』一九八七

注2 『大阪春秋第八八号』一九九七

注3 『感染症の世界史』石 弘之著 角川文庫 二〇一八

主な参考文献

- 『感染症の日本史』磯田道史著 文春新書 二〇二〇
『パンデミック・マップ』サンドラ・ヘンペル著
日経ナショナルリゾグラフィック社 二〇二〇
『週刊エコノミスト』二〇二〇年五月二六日発行 毎日新聞出版
『世界の大発明・発見・探検・総解説』自由国民社 一九八〇
『毎日新聞』 『日本経済新聞』 コロナ関連記事

「新型コロナウイルス禍の二〇二〇年」

新型コロナウイルスで経験したこと

末廣 訂

一 発生源の中国について

二〇二〇年の春先から、降って沸いたようにマスコミで報じられ、あつという間に世界中に蔓延したのが、中国武漢から発したとされる新型コロナウイルスで、人々を不安のどん底に叩き込んだ。

中国には、現役時代に当時の海外会社実態調査と監査を兼ね、一九九五〜九六に四回と、退職後も桂林とシルクロードの旅をした。出張先は主に北京、天津、唐山、厦門、大連、上海の子会社であり、合間に近場の観光をしたが、当時の中国は建設ラッシュで、訪問の度に高層ビルができ、風景が変わっていった覚えがある。

また、表通りから一步路地裏通りに入ると、まだまだ昔の家屋が残っていたし、万里の長城等の観光地でのトイレの汚さや臭いは不思議と脳裏にへばりついている。今年の梅雨時の大雨の記事で思い出した天津での出来事、「車に同乗しているとき、時々車がカーブを切って大きく揺れるので、なんでやと聞くと、道路のマンホールの蓋が盗まれ穴が開いて危ないから」―大雨で冠水した道を自転車に乗っていた女性がマンホールに落ちて亡くなったとある中国の記事で思い出した。

大学のゼミ仲間ですら四〇歳ごろから海外担当で長らく中国の代理店



下福島プール入口
付近の張り紙



野田工務所の所属職員が感染。即日閉庁。張り紙が貼られていました。四月九日。福島区内では、区役所・中学校・交番などでの感染が公表されています。

や行政との交渉を担当した友人から三回にわたり、長文のコロナの記事や本人の論説をメールで送ってきている。

本人曰く「初めて中国訪問した折、同業者の担当マネージャーから「中国に悠久のロマンとか、孔子の人格論をもって接すると失敗しますよ」とー大変有意義なアドバイスに今でも感謝しているとのこと。また、中国人（漢人）はメンツを重要視する。したがって、相手のメンツを立てて、自己主張すること。中国の要人は懐が深い、相手の風貌や見識、度胸等をすぐに読み取り、威張る。日本人は威張りたがるが、叩かれるとすぐ凹む。

何故に中国でウイルスが多発するのかー一口で言うと、野生動物のゲテモノ食いと衛生観念の欠如であるーとのこと。

コロナに関して、その後の中国の対応というか、「あくまで発生源は中国ではないという主張」があり、発生後の対策は「ご存知のように、徹底したロックダウン、緊急対策病院の設置、一段落後は海外感染国にマスクの配布、専門医の派遣等をしている。

従来、中国と友好国であったオーストラリアが今回のコロナ発生の原因等を調査したく現地を訪問を要請すると、中国から拒否されたという記事がある。また今年に入り世界保健機構（WHO）から中国武漢に調査に入ろうとすると空港で入国拒否されたというニュースがあったが、後日入国を受け入れ、調査に協力すると報道があり、ホットした。

二 巢ごもりで考えてみたこと

第二波後の緊張感のゆるみか、GOTOキャンペーンによる経済政策の促進も手伝って人々の動きが活発になり、一二月から更なる感染者の増加で緊迫し、年末年始から第二回目の非常事態宣言の必要性が出て、正月明け東京都中心に関東地域に宣言を表明した（のちに関西圏などにも）。

二〇二〇年を振り返ってみると、当初は英国船籍のクルーズ船の横浜寄港云々から、感染者の隔離問題が始まり、それから中国要人の国賓来訪の話題、そうこうするうちに、オリンピック開催が延期になったが、依然として若い世代の感染の認識が低く、行政の外出自粛の要請効果がなかったが、志村けんさんの死去で緊張が高まり、いろんなイベントが中止となった。当会のセミナーは一度も開けなかった。

アベノマスクは不評で税金の無駄使いに終わった。また、国民一人当たり十万円の給付金があったものの、マイナンバーカードが使い物にならず、日本政府のIT化やデジタル化遅れを露呈してしまった。

東京の知事さんの横文字発表も話題になった。オーバーシュート、ロックダウン、ソーシャルディスタンス、クラスター、テレワーク等々、これら新語の表現に手話担当の方が大変苦労したと聞いた。また、その後PCR検査数があがらず、政府は経済優先か感染対応優先か方針も定まらず、マスクを含め医療関係者や地方自治体との綱引きがあった。

一方、アメリカをはじめ、ブラジル、インド、また欧州の感染状況は切羽詰まりで、一向に改善される見込みがない。

今回のコロナ流行によって、我々の生活は一八〇度転換し、あるいは全く経験したことの無い世界に突入するきっかけが始まったように思う。

その一つが働き方の改革というか、これまでの労働のあり方が大きく変わると思う。

テレワークという、会社に出勤しないで、自宅勤務で今まで通りの成果を上げる勤務形態である。

ということは、会社は大きなオフィスビルは不要、便利で地価の高い都心部から空気のキレイな田舎への移転、従業員はワーケーションと称した娯楽と仕事を上手くミックスした生活環境が可能になっていく。次女の娘婿は昨年初夏に東京勤務から大阪自宅に戻り、遠隔操作でプログラムの仕事をしている。

その二は、多分に一と関係するが、デジタル化、IT化というDX（デジタルトランスフォーメーション）の実現がますます進んでくると思う。元々これはアナログという言葉からデジタル化という方向に進んできたと思う。オンライン会議・授業、ペーパーレス化、遠隔医療と電子カルテ、等々遠隔にて操作ができ、データ活用により何事もできることである。これから派生して、キャッシュレス化や省力化、効率化にも進んでくる。身近なことでは、七十代の家内が音楽のレッスンを受けているが、最近オンライン授業に切り替えて自宅で練習を続けている。

新型コロナの影響や問題を災難と受け取るのか、或いは変化を上手く利用して「災い転じて福となす」という勝者になりうるかどうか

大きな分かれ目になると思う。

二〇二〇年はコロナ・コロナの中で大きな出来事もあった。安倍首相の突然の辞任表明で菅新内閣の発足、東京五輪・パラリンピックの延期、そして大阪人には忘れられない「大阪都構想の再投票」で否決されたこと。

個人的には四月末の早朝、家内が寢床で突然鼻血が止まらず、タオル四、五枚が真っ赤になり、係りつけの医院に電話、急遽出勤していただき、応急手当をした後、救急車で関電病院に入院し、命拾いをした。

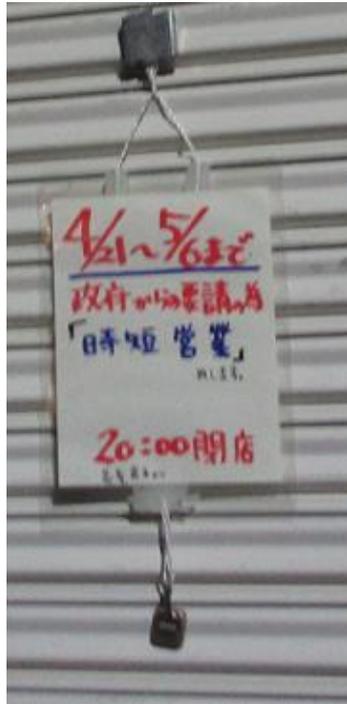
また、夏祭りや諸行事が中止されている中、三〇〇年以上続き大阪府無形文化財に指定されている海老江八坂神社の宮座神事がある。このような状況の中で、当年の頭屋とうやに当たっていた我が家がコロナで

神事の続行が心配されていた。座衆で話し合い、松明行列なまついや直会なおひを中止し、本殿にて饗料きょうりょう理等のお供え神事のみを行って無事終えることができた。また、中学一年生になった孫が古式の装束で参加してくれたのが良い思い出となった。



二〇二一年に入っても一向に収まることのない新型コロナウイルス感染症リスクの中、対策に苦慮する政府や自治体そして日夜奮闘されている医療関係者、またコロナで仕事や商売が苦境になっている人々を案じ、一方では全く新しい変革（5G・VR・DX等）の波に、人生一〇〇年の時代を上手く我々年寄世代がついていけるのか、心配と不安がいっぱいである。

人間の知恵と自然界の摂理との戦いが容易には収まらない巢ごもりの中で、本を読み、TVやマスコミのニュースを聞きながら、「人間生きている間は元気で頑張る。そして自分のことは自分で守る」しかないな—と思ったことが巢ごもり中に考えた結論である。



野田の居酒屋の張り紙

夏の終わりに閉店



テイクアウトの店が増えました

〔新型コロナ禍の二〇二〇年〕

コロナ下の福島区の花・ノダフジ

藤 三郎

二〇二〇年四月下旬は、新型コロナ第一波のピークの真っ最中であった。この頃は緊急事態宣言も発せられ、人々は自粛中であったが、福島区のノダフジは、見に来る人はまれであったが、各所でひっそりと咲いていた。このことは読売新聞四月二六日に「自粛中でもけなげに」と写真入りで報道された。例年取材に来るNHKラジオの生中継もなく、その代わりにリポーターが自宅からリモートで放送していた。区役所主催の「のだふじ巡り」をはじめ、「のだふじウォッチングスタンプリリ」、「藤まつり」、その他商店街のイベントなどはすべて中止された。「のだふじマップ」も発行されなかった。

二〇二〇年の福島区のノダフジの開花はよくなかった。無論コロナのせいではない。一月の平均気温が三月上旬並みに高かったためである。ノダフジの花芽は、冬の低温を経験してからつぼみが膨らみ始めるが、冬の気温が高かったため休眠から目覚めなかったと思われる。特に、了徳院・大開公園・吉野小学校などの「野田長藤」は全く咲かなかった。これは大都会だけの現象ではなく、奈良の万葉植物園・草津の三大神社などのノダフジも半分くらいしか咲かなかった。地球温暖化の影響はノダフジの開花にも影響している。

一方、野田のコミュニティーセンターでは、八重桜とノダフジが同時

に咲くという珍しい現象も見られた（写真）。

植物としては	「フジ」・「ノダフジ」
歴史的な意味で書くとき	「野田藤」
福島区の花としては	「のだふじ」



ノダフジとサクラの競演
斉藤明子さん（野田）撮影

区民のボランティア団体「のだふじの会」は、月例会・バスツアー・新年会など「密」になりやすい行事はすべて中止したものの、季節毎のノダフジの管理作業はすべて計画通り進めた。開花前のハトよけネット掛けとネット外し、開花後の花殻落とし、猛暑の間は定期的な公園のノダフジの散水、夏・秋・冬の剪定と講習会などは多くの会員が集まり例年通り作業を行った。この状況は少なくとも来年の三月まで続くと思われる。

早く新型コロナウイルスがおさまり、二〇二一年の開花を笑顔で迎えたいと、切に希望している次第であります。

「新型コロナ禍の二〇二〇年」

コロナ禍での自粛生活

宮本隆正

二〇一九年末からの新型コロナウイルス感染症の流行による社会的影響が、これほどまでになるとは、年始に誰が予想しえたであろうか。

三月初めから、地元の会議や会合がなくなり、三月半ばからは孫の子守りが断続的に五月末まで続くことになる。この男の子は三人いる孫の一番下で、大阪市内に住む次女夫婦の子どもである。

次女夫婦は銀行で共働き、シフト制で二人とも出勤の時は朝、次女がこちらに預けに来る。夕方、迎えに来るまでの間、私と家内が孫の遊び相手である。多い時は週二回にもなるので、近くの神社や公園に出かけたり、近くを走る環状線や阪神の電車を見に行ったりしてご機嫌を取った。他にも消防車を見に行ったり、家の中ではジグソーパズルで遊んだりと遊び相手も中々に骨が折れた。しかし、ここまで一緒に近い時間を過ごせたのはコロナのお蔭か、今となっては望外の喜びであった。

OBハイクも三月より中止となり、他のハイクもなくなったので、運動のつもりで五月の連休に家内と大阪市内を歩いた。

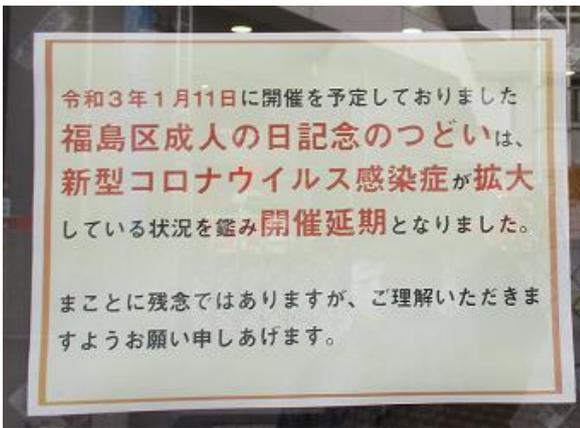
境内に有名なあみだ池がある西区の和光寺まで往復二時間かけて。また難波の高島屋まで片道九〇分かけて歩いた。昔は歳末の夜、タク

シーがつかまらなくて歩いて帰ったものだが。別の日には梅田の阪急・阪神へ片道一時間かけて歩いた。いずれもランチをどこかで食べて帰宅するというパターンであった。

夜は三月より外出することもなく、三か月間は家飲みに徹した。六月初めに友人夫妻と我ら夫婦の四人で夕食会を行ったのが本当に久しぶりの人に会うための外出であった。

これから七月に入ると、会議や会合が始まり、三月以前の予定が復活して来ると思う。ただ、新生活様式に即した新セオリーが定着することになるであろう。今年は夏祭りも盆踊りもなく、寂しい夏を迎える。

(この文章は某社OB会だよりに掲載したもので、二〇二〇年六月末に記述した)



福島区民センター玄関の掲示
催しの多くが中止・延期されました

鷺洲にかかっていた橋柱石碑 2

水谷浩一

関西スーパー前の路地に橋柱石碑が横たわっているとの情報を得て、去る二〇一八年一〇月二五日に末廣会長はじめ七名で確認に行きました。そして黄色いペンキで塗られた橋柱石碑が二つに割られた状態で横たわっていました。

それには「さぎしま」とはつきり書かれていて、鷺洲の古い地名を伝える橋柱であると判明しました。

鷺洲には井路川が流れ、鷺島橋はじめ数多くの橋が架けられています。

江戸時代の絵地図に見える「島」は鷺洲小学校の校歌に歌われる「たみの島わに」は「田蓑島」から引用されています。

さて、この橋柱をどうするか協議した結果、小学校の校庭に五柱が保存されている所に加えるという結論に達しました。

現在、小学校は校舎増築工事中で、五柱は移設されていて二〇二二年三月に完成時に新しい場所に全て並べる予定となっています。

それまで橋柱修復を請け負った石材業者に預かってもらい、工事が終わった時点で小学校へ引き渡す段取りになっています。

若干費用がかかりましたが、歴史的な遺物を残すことは大切で、来年校舎が完成して新しく加わった橋柱がどのように鎮座しているか楽しみです。(会報十三号「鷺洲にかかっていた橋柱石碑」参照)

浪花ふくしま「男塾」まち歩き

「海老江・鷺洲コース」案内

大垣禎秀

実施日 二〇二〇年一月二〇日（金）午後二時～四時三〇分

二〇一九年一月に福島区社会福祉協議会が福島区内六〇歳以上の男性を対象に男性の居場所づくりを立ち上げ、福島地区のまち歩きをしました。その後浪花ふくしま「男塾」の名称でボランティアグループとして活動することになりましたが、コロナ感染拡大の為、三月より活動中止となり、九月より再開し、昨年につづきまち歩きすることが決まり、今回も福島区歴史研究会に講師の依頼があり、田野会員にお願いして海老江から鷺洲まで歩くことになりました。

当日は一二名の参加者で平均年齢七〇歳、野田阪神から海老江の石畳、大和田街道跡、八坂神社と海老江地区を隈なく案内していただき、孔官堂跡、ミズノ跡、そして浦江聖天で無事終了しました。

参加者からのアンケートでは、良かった、改めて福島歴史を勉強させていただきました、感謝です、等のコメントも頂きました。

浪花ふくしま「男塾」としても今後の活動の中でまち歩きも入れることになりました。



会員・田野さんがテレビ取材協力

2021年1月23日放映のテレビ大阪の番組「OSAKALOVER」に「監修協力・田野登（福島区歴史研究会）」とクレジットされました。

内容は福島駅周辺の謎を解明するもので、元会員・中島陽二さんの「明治44年頃の現福島区」の地図も出ていました。



聖天さん（了徳院）にて

歌舞伎入門講座

世界に誇る歌舞伎の素晴らしさ

—二〇一九年第二回セミナー報告—

大垣 禎秀

日時 二〇一九年五月二十六日(日) 午後二時～四時

会場 福島区民センター 三〇一号室

講師 川島靖男氏(関西・歌舞伎を愛する会事務局長)

テーマ 歌舞伎入門講座 世界に誇る歌舞伎の素晴らしさ

参加者 四七名

関西で歌舞伎をもっと元気に・・・

四〇～五〇年前の大阪の歌舞伎の状況は、歌舞伎公演が無くなるのではと言われほど危機的な状況でした、昭和四二年～四八年の七年間、中座での歌舞伎の公演は一度もなし。なんばにあった新歌舞伎座での大阪顔見世が昭和四四年からスタートしたが不振続きで昭和五二年の公演を最後に無くなり、最後の公演が澤村宗十郎さん澤村藤十郎さんの襲名披露公演でした。藤十郎さんは自らの公演の不入りで大阪顔見世をつぶしてしまったと責任感と悔しさを友人を通じて松下電器労組の高畑敬一委員長に話し大阪での歌舞伎を復活させたいと高畑

委員長に協力を訴えられました。相撲と歌舞伎の好きな高畑委員長は藤十郎さんと一緒にやりましたよ、と意気投合され、高畑委員長の下にいた川島氏を事務局長に、趣意書や会則、活動内容等作り行政や経済界、労働界、学者文化人を廻ってほしいと指示され高畑委員長は大阪民労協の代表幹事されており幅広い労働組合で取り組みすることになり松下労働会館内に関西で歌舞伎を育てる会の事務局を置き松下労組が物心両面でバックアップ、松下電器としては歌舞伎と宝塚が好きな樋野副社長が世話人として支援され、昭和五四年五月には五五年ぶりに船乗り込みを復活させ。今では大阪の風物詩になつて。平成四年に「関西・歌舞伎愛する会」に改名し。今年で結成四〇周年となります。七月三日より道頓堀松竹座で片岡仁左衛門さん、中村鴈治郎さんらによる七月大歌舞伎を公演してる。大阪でここまで歌舞伎が元気になったのは、福島区で創業された松下電器のおかげでもありません。

歌舞伎の歴史

歌舞伎の始祖される出雲阿国は出雲大社の鍛冶職中村三右衛門の娘で、出雲大社の巫女で出雲大社本殿の修理費勧進の為大人たちと諸国巡業で慶長八年(一六〇三)北野天満宮や五条河原で男装して「かぶき踊」披露。慶長一二年(一六〇七)二月二〇日、阿国は江戸城で徳川家康、大名の前でかぶき踊りを披露。二月二〇日が歌舞伎の日となつてる。

歌舞伎の語源はかぶき者、傾く世の中を斜めに構えている者、じょうしきはずれの格好、異様な風体。歌舞伎は後で付けた当て字で江戸時代は歌舞伎という字が当てられた。もともとはかぶき踊り、傾くが本来の要素。

阿国のかぶき踊りをまねて、遊女屋の経営者は遊女を舞台に立たせ「遊女歌舞伎」と言われたが幕府は風俗乱すと禁止する。次は前髪をつけた美少年の「若衆歌舞伎」同性愛の対象とされ風紀上禁止となる、次は舞台に立つ少年は前髪を落とす事条件で再開、「野郎歌舞伎」と言われ女方の芸が生まれる。

元禄時代歌舞伎も飛躍的な大展開をとげ今日の歌舞伎の基礎ができた。四幕続きの複雑な構成で俳優の兼業から独立した狂言作者が出現し、義理と人情など人間の姿描く上方の名優、坂田藤十郎の活躍、江戸では武家社会を反映荒々しい演目が喜ばれ初代市川団十郎が活躍。舞台も狂言作者の並木正三が世界初の廻り舞台、花道にある小さいセリなど考案し宝暦八年（一七五八）大坂角の芝居（角座）で初めて使用する。

近松門左衛門

名作者近松門左衛門が浄瑠璃作家として出てき、元禄八年（一七〇六）坂田藤十郎に迎えられる一〇年間歌舞伎の脚本書く、代表作には遊女お初と平野屋の手代徳米の曾根崎天神の森での心中を題にした曾根崎心中が大ヒット他数多くの作品を書いている。

上方歌舞伎と江戸歌舞伎の違い

上方は武士が少なく、商人や庶民中心の社会を背景として、色男が恋に落ちる様子など描いた和事と言われる芝居が人気で、演技は写実性を重視した優美なやわらかいしぐさが特徴。江戸は武士中心の社会を反映し荒々しい、線が太い、誇張的な扮装、仇討ち物を好む風土。演技に特徴ある荒事を家の芸を継承するのを重視する。上方は型としてとらえるのは難しく常に自ら創意工夫することが大切と言われる。

道頓堀五座

今の道頓堀は飲食店と外国人が引き締めあう街ですが、江戸時代は日本一の芝居町で弁天座、朝日座、角座、中座、竹本座と道頓堀五座あったが今では全部無くなっており歌舞伎が見られる劇場は松竹座だけになった。

屋号

江戸時代、俳優の身分は一般庶民より下に置かれ、公式には苗字を名乗れなかったので商家などにならって屋号を付けた。出身地や自ら営業していた店の名前などつけたものが多い。

片岡仁左衛門は松嶋屋、市川海老蔵は成田屋など歌舞伎の屋号は一〇〇以上ある。

襲名

襲名の「襲」とは衣服を重ねるという意味で先代の着た衣装「芸」の上に重ね着をして継承すること。歌舞伎(家の芸)の伝統を継承しさらに発展させる優れた役者の育成システムであります。同時に興行主にとっては確実にお客様が入るドル箱であります。

市川海老蔵さんは一三代目市川團十郎白猿襲名披露を二〇二〇年五月から全国各地で公演する予定です。

歌舞伎は庶民にとって何だったのか

最高の娯楽で、芝居を知らない相手にもされず、弁当とお酒を持参し安い平土間の升席で一日楽しんでいた。豊かな商家は屋形船で芝居茶屋へ、休息と食事の後観劇し、時には最頂の役者と呼ばれ飲食などした。

実際起こった事件がすぐに芝居化されるなど、今日のワイドショーとか週刊誌と同じであった。

情報の発信基地で人気役者の浮世絵を買ったり役者の台詞、衣装、色彩など真似をした。江戸文化の頂点をなすのが歌舞伎であった。

終わりに

今回、初めて歌舞伎をテーマに取り上げさせていただきました。多数の方に参加いただきました。最近歌舞伎の話題では市川海老蔵さんの長男かんげん君をテレビなどでよく見ますが歴史など

はほとんど知りませんでした。大阪でここまで歌舞伎の発展に尽力された講師のわかりやすいお話で大変勉強になりました。歌舞伎に興味お持ちになった方も多いのでははないかと思えます。次はいつされますかと問い合わせもいただいております。は中級編、中級編とお願いしたいと思います。

2020年の事業

『福島区歴史研究会会報 第13号』発行 2月
展示「福島区の史跡」3.24~10.15 会場・福島図書館
展示「福島区の災害」2019.10.7~2020.9.30 会場・福島区役所
展示「写真で見る福島区」10.7~2021.3.31 会場・福島区役所

2020年の活動記録

- 1.16 役員会・企画会議
- 2.20 役員会
- 2.23 総会・懇親会
- 3.19 展示作業(図書館)
- 7.16 企画会議
- 9.17 企画会議
- 10.2 展示作業(区役所)
- 10.15 企画会議・展示撤去(図書館)
- 11.19 企画会議
- 11.20 浪花ふくしま「男塾」まち歩き 案内
- 12.17 企画会議

浦江塾〔協力〕 2.1 3.7 4.4

ホームページ <http://o-fukushima.com/rekishi/top.htm>
(会報バックナンバーも掲載)



大阪を襲う南海地震と津波

—二〇一九年第三回セミナー報告—

森本棟夫

日時 二〇一九年十一月一日(日)午後二時～四時

会場 福島区民センター会議室

講師 長尾 武氏 歴史地震研究会 会員

テーマ 大阪を襲う南海地震と津波

参加者 三六名

一 講演の趣旨

福島区役所で展示する「福島区の災害」に併せて企画されたセミナーです。

二〇一八年には、六月一日に大阪北部地震・震源地は茨木市(M六・一)があり、激しい揺れに襲われました。また、九月四日には、台風二二号が大阪・神戸間に再上陸し、第二室戸台風(一九六一年九月一六日)並みの強風と高潮に襲われました。

近年、南海地震と津波の襲来が切迫しており、もしこれが起これば、大阪で最大震度六程度の強い揺れに加えて、3mの津波が襲う事が予想されます。地域によって、より強い揺れや高い津波が来る可能性もあります。過去に大阪を襲った南海地震と津波、また、台風や高潮について学び、災害の教訓を生かして、今後襲って来るであろう災害に

対して備える必要があります。

講師の長尾氏の講演内容に、自分で調べたことなどを少し加えて報告します。

二 講演の概要

大阪北部地震(M六・一)では、施工不良のブロック塀が倒壊し、女子児童が圧死するという悲しい事例が起きました。ブロック塀対策が強化され、下福島公園の赤レンガ塀も撤去され、フェンス塀に変わりました。多くのマンションでエレベーターが止まり、回復に日数が掛かり、家屋等の損壊も多く見られました。有馬―高槻断層帯が動いた様ですが生駒断層も近いので心配です。設計・設備の耐震偽装・不良の問題もまた心配です。

台風二二号は、関西国際空港で最大瞬間風速五八・一m市内でも四七・四m。大阪湾で高潮の最高潮位三・二九mと第二室戸台風匹敵する台風でした。関空では、一部浸水が有ったり、海上保安庁の指示を守らなかった貨物船が連絡橋に衝突し破壊させたりしました。高速道路や高架道路でトラック等が風に煽られて横転したり、トタン屋根等も飛ばされ、屋上のエアコンの室外機が転倒したり、街路樹や公園の木々が折れたり倒れたりし、又家屋等の損壊も沢山見られました。一方、内水氾濫は無く、三大水門等が機能して高潮の被害は免れる事が出来ました。これは、過去の災害を教訓とした行政の努力の成果だと思えます。

日本に地震が多発する理由は、日本周辺では、海のプレートである太平洋プレートとフィリピン海プレートが、陸のプレートである北米プレートとユーラシアプレートの下へ一年あたり数cm沈み込んでいくから。この為に歪みが生じて、プレート境界域やプレート内部で地震が発生させます。この為に日本周辺では地震が多く発生します。

以下は、有史以降の南海トラフを震源とする巨大地震です。

◎ **白鳳南海地震** 天武天皇十三年一月一日（六八四年一月二日）
九日）入定（亥刻、午後一〇時頃）に、大きにないふる（地震）と被害状況も併せて『日本書紀』に記載されています。

◎ **仁和南海地震** 仁和三三年七月三日申刻（八八七年八月二六日午後四時頃）に、五畿内七道諸国で大きな地震が有り摂津国の被害が最も甚だしかつたと『日本三代実録』に記載されています。

◎ **康和南海地震** 永長元年一月二四日辰刻（一〇九六年二月一日）
七日午前八時頃）に畿内で大きな地震が有り、駿河から伊勢沿岸に津波が押し寄せました東海地震と考えられます。又、康和元年一月二四日卯刻（一〇九九年二月二二日午前六時頃）に大地震があり高知平野の沈降が有ったと公家衆の日記に記されています。
南海地震と考えられています。

◎ **康安南海地震** 康安元年六月二四日寅刻（一三六一年八月三日午前四時頃）大きな地震がありました。『太平記』に「山は崩れて谷を埋み、海は傾きて陸地に成りしかば、神社仏閣倒れ破れ、牛馬人民の死傷する事、幾千万と云数を不知」「中にも阿波の雪の湊（海部郡美波町由岐）我が国最古の津波供養碑と云われる「康

曆碑」がある」と云浦には、俄に太山の如くなる潮漲来て、在家千七百余宇、悉く引塩に連て海底に沈しかば、家々に所有の僧俗・男女、牛馬・鶏犬、一も不残底の藻屑と成りにけり」と表現に誇張があるかも知れませんが書かれています。大坂でも上町台地の麓まで津波が来たと言う事を、法隆寺の預職が書き継いだ『嘉元記』に記載されています。

◎ **明応地震** 明応七年八月二五日辰刻（一四九八年九月二〇日）
午前八時頃）京の都が大きく揺れ、伊勢・三河・遠江・駿河・伊豆で津波が有り、浜名湖の南側が津波で浸食され海と繋がったり鎌倉の由比ヶ浜でも大仏殿の堂舎屋を破壊した。和歌山・徳島・高知・大阪でも痕跡が確認されています。

◎ **慶長津波地震** 慶長九年二月一六日戌刻（一六〇五年二月三日）
午後八時頃）関東から九州にかけての太平洋沿岸の広い範囲が大きな津波に襲われました。

◎ **宝永地震** 宝永四年一月四日未刻（一七〇七年一月二八日）
午後二時頃）南海トラフのほぼ全域で、プレートが一気に破壊されて東海地震と南海地震が同時に発生したため「宝永地震」と呼ばれています。摂津・河内でも大きな揺れが有り、大阪湾も津波に襲われ、大きな被害が有りました。

◎ **安政南海地震** 嘉永七・安政元年一月五日申刻（一八五四年二月二四日午後四時頃）、前日の二三日午前九時頃に発生した東海地震の揺れに続いて発生しました。伊豆半島から紀伊・土佐に掛けて大きな揺れと津波に襲われました。大坂も揺れ

と津波が襲いました。濱口梧陵をモデルにした「稻むらの火」は、この時の事です。

◎ **昭和南海地震** 昭和十九年（一九四四）二月七日東南南海地震（M7・9）が発生しました。二年後の昭和二十一年二月二日午前四時十九分西日本が大きく揺れ始めました。M8で安政南海地震のM八・四に比べてかなり小さかったので、大阪では、揺れ・津波とも被害は有りませんでした。高知・徳島・和歌山では、かなりの被害が出ています。

太平洋の海底、水深一千m～五千mの窪地（南海トラフ）を震源域として巨大地震が発生してきました。紀伊半島・潮岬沖附近を境に、**東が東海地震（東南南海地震も含む）、西が南海地震の震源域**となっています。ここで地震が発生すれば、東海地方から九州にかけの太平洋沿岸を大津波が襲います。

歴史資料に記録された最古の南海トラフ地震は、前述の通り六八四年の白鳳地震で、その後、百年～二百年間隔で大地震が起こってきました。南海地震と東海地震は二～三年の間隔を置いて起こる場合と同時起こる場合があります。地震の発生年に元年が多いは大きな災害が起こると改元される事が多いからです。

一五年前の二〇〇四年十二月二六日にスマトラ島北西沖のインド洋でM九・一の地震が発生しました。その時のプーケット島での映像は、衝撃的でした。しかし言い伝えを守って助かった部族（海洋民族のモーケン族）・学校で教わった事を両親に伝え周囲の

人々を救った少女等の逸話が後日に伝えられています。これ以降、インド洋にも津波警報システムが構築されました。

大阪市浪速区に大地震・大津波を記録した石碑『大地震両川口津浪記石碑』（浪速区幸町、大正橋北東詰）があります。嘉永七年安政元年六月一日（一八五四年七月九日）に発生した**伊賀上野地震**の事から語り始め、同じ年の一月四日（二月二三日）の**安政東海地震**に触れ、翌五日の**安政南海地震**での混乱や被害の仔細を記し、一四八年前の宝永四年一〇月四日（一七〇七年二月二六日）に起こった、**宝永地震**での被害を伝える人も稀で、その教訓が活かせなかった事の反省を込めて、地震時の心得や、必ず津波が来る事を後世の人々に伝える為と、溺死された全ての人々の追善供養の為にこの碑を建立し、守り続けてくれる事を願っています。そして、この一基の碑は、安政二年（一八五六）に幸町五丁目の木津川の渡場に建立されて以来、幾度かの移転と線香立・花立・灯籠・玉垣の増設や補修費・移転に要した費用等を幸町他の人々の寄附で賄い、地藏盆に併せて碑を洗い、刻まれた文字に墨を入れて、先人たちの願いを百五〇余年間も守り続けてこられた地元の方々の矜持が、何時訪れても花立に新しいお花が供えられている事に現れていると思われまます。

又、堤防の強靱対策としてスーパー堤防があります。コストが掛かる等で中々難しいですが、福島区には海老江の淀川堤防（整備中）、野田の大阪市中央卸売市場と福島のはたるまちが短いですが此れに該当します。

結論として、地震・津波・台風・豪雨等の自然災害は、繰り返し起こっている事を、碑文・当時の瓦版・古文書等々から津波の遡上高・到達時間や被害状況も含めて解明する事が出来ます。此れ等を学び、それを識り、その対策に不断の努力と語り継ぐことの大切さをしっかりと受け継いで行かなければならないことを今回のセミナーで再認識しました。

余話として、国土地理院は、相次ぐ自然災害に「自然災害伝承碑」という地図記号を二〇一九年三月一五日に制定し、各自治体に登録を依頼しています。因みに大阪府は、『大地震両川口津浪記石碑』・『擁護壘』・『大塚切れ洪水記念碑』の三ヶ所を登録しています。又、四天王寺の『安政地震津波碑』は、大阪市顕彰史跡第一八八号に登録されています。



国土地理院が新しく制定した
「自然災害伝承碑」の地図記号

参考文献

- 『水都大坂を襲った津波』改訂版 長尾武著 二〇二二
- 『地震の日本史』年増補版 中公新書 寒川旭著 二〇二三
- 『天災から日本史を読みなおす』磯田道史著 中公新書 二〇一四
- 「悲惨な記憶をつなぐ」毎日新聞 二〇一九年二月三〇日朝刊 一八面 中尾卓司記事



大正橋北東詰にある『大地震両川口津浪記石碑』

次ページに碑文



長尾講師のHP「大阪の地震・津波資料館」

<http://osaka-web-museum.na.coocan.jp/index-na.htm>

石碑に刻まれた文字

天下和順

風雨以時

日月清明
災厲不起

南無阿彌陀佛
南無妙法蓮華經

願以此功德
我等與衆生

普及於一切
皆共成佛道

[北面]

安政二乙卯年

七月建之

主 施

長堀茂左衛門町

丁人中

家守中

發起 森

補 助

辛町五丁目

年 寄 播磨屋忠四郎

地 主 播磨屋重蔵

大石取次 淡路屋喜右衛門

大石一本 西側町丁中

[東面]

大口川

于時嘉永七甲寅年六月十四日子刻頃大地震、市中一統驚き、大道川端にイミ、ゆり直しを恐れ四五日心もととなふ夜を明しぬ。伊賀・大和けか人多しとなん。同十一月四日辰番大地震、前二恐れ明地に小屋懸、老少多く小船に乗。翌五日申刻大地震、家崩れ出火も有。恐敷有様漸治る頃、雷の如く響き日暮頃海辺一同津波、安治川は勿論、木津川列而はけ敷、山の如き大浪立、東堀迄泥水四尺計込入、両川筋に居合す数多の大小船破網打され、一時川上へ逆登る勢ひに、安治川橋・亀井橋・高橋・水分・黒金・日吉・汐見・幸・住吉・金屋橋等悉崩れ落、尚大道へ溢る水にあへて迷ひ、右橋より落ち込も有。大黒橋際に大船横堰二成候故、川下より込入船、小船を下敷に弥か上乗懸、大黒橋より西、松ヶ鼻南北川筋一面暫時二船山をなして多く破船、川岸の掛造り納屋等大船押崩し、其物音・人の叫ぶ声々急変にて、助ヶ救ふ事あたハす。忽水死けか人夥敷、船場・島の内迄も津浪寄せ来るとて上町へ逃行有様あハたし。今より百四十八ヶ年前宝永四丁亥年十月四日大地震之節も、小船二乗、津浪二て溺死人多しとかや。年月隔てハ伝へ聞人稀なる故、今亦所かはらず夥敷人損しいたまま数事限なし。後年又計かたし。

[南面]

津浪記

都而大地震の節、津浪起らん事を兼而心得、必給に乗へからず。又家崩れて出火もあらん、金銀証文蔵メリ火用心肝要也。扱川内滞船ハ大小二応じ水勢穏成所操、撃かへ、困ひ船ハ早々高く登し、用心すへし。か、る津浪ハ沖より汐込計二非ず。磯近き海底、川底等より吹涌、又ハ海辺の新田畑中二泥水あまた吹上る。今度大和古市池水溢れ、人家多く流しも、此類なれば、海辺・大川・大池の辺に住人用心有へし。水勢平日之高汐と違ふ事、今の人能知所なれとも、後人之心得、且、溺死追善者、有の終拙文にて記し置。願くハ、心あらん人、年々文字よミ安きやう、墨を入給ふへし。

※よりはりを示す。
また、碑文の釈文には
句読点を加えています。



石碑が建つ底板に刻
まれた方位

加茂卯

幸 五若中
幸町五丁目
須賀忠四郎
須賀重蔵
一森清八
増井卯兵衛

明治24年(1891)に建てられた
線香立、花立ての文字